

- |           |       |               |       |              |                        |              |       |
|-----------|-------|---------------|-------|--------------|------------------------|--------------|-------|
| 同村六十六番地平民 | 藤井 はつ | 同村五拾貳番地平民     | 藤井久太郎 | 同村千四拾八番地平民   | 鈴木 初造                  | 同村千七百貳番地平民   | 鈴木 嘉七 |
| 同村六拾壹番地平民 | 藤井勝五郎 | 同村貳千貳百五拾番地平民  | 高沢松五郎 | 同村千五拾七番地平民   | 鈴木房次郎                  | 同村千六百九拾四番地平民 | 鈴木保太郎 |
| 同村六拾貳番地平民 | 新倉辰五郎 | 同村貳千三百五番地平民   | 中野浅五郎 | 同村千六拾三番地平民   | 鈴木 吉造                  | 同村千六百九拾貳番地平民 | 福山貞次郎 |
| 同村拾壹番地平民  | 高沢 磯吉 | 同村貳千三百五拾壹番地平民 | 川井周次郎 | 同村千九百九拾九番地平民 | 沼田万次郎                  | 同村千六百九拾壹番地平民 | 森 吉五郎 |
| 同村拾番地平民   | 藤井滝次郎 | 同村貳千三百五拾貳番地平民 | 川井為五郎 | 同村千六拾七番地平民   | 沼田 浅吉                  | 同村四百九拾六番地平民  | 大川水次郎 |
| 同村拾貳番地平民  | 藤井嘉十郎 | 同村貳千三百八拾貳番地平民 | 又村 重造 | 同村千百貳番地平民    | 沼田 佐吉                  | 同郡妻田村千七百番地平民 | 笹生 和吉 |
| 同村拾三番地平民  | 藤井 源七 | 同村貳千三百八拾壹番地平民 | 川井為三郎 | 同村千七拾貳番地平民   | 落合 海造                  | 同村貳百四拾七番地平民  | 福山 ゆき |
| 同村六十番地平民  | 伊波伊三郎 | 同村四百三拾九番地平民   | 中野佐太郎 | 同村千六拾八番地平民   | 落合 ラク                  | 同村九百三番地平民    | 永野 茂  |
| 同村五拾五番地平民 | 藤井金太郎 | 同村千四拾貳番地平民    | 石川真次郎 | 同村千九拾六番地平民   | 落合馬次郎                  | 同村九百三番地平民    | 佐野 市郎 |
| 同村拾七番地平民  | 藤井 茂八 | 同村千四拾六番地平民    | 石川長次郎 | 同村千九拾六番地平民   | 神奈川県愛甲郡長 原 豊稷殿         |              |       |
| 同村五拾三番地平民 | 金子平次郎 | 同村千四拾七番地平民    | 石川福太郎 | 同村千九拾六番地平民   | 神奈川県愛甲郡三田村外四ヶ村戸長 村上安次郎 |              |       |

(注) 図面略。

(柏木喜重郎氏蔵)

一四 足柄上郡柳川村他二か村村民の組合村

分離をめぐる上願書

御 説 諭 願

今般町村制御発布ニヨリ当部内三廻部村ノ義ハ旧来ヨリノ当部内ヲ分離シテ寄村へ合併ヲ主張シ村民連署シテ御庁ニ出願セシ由然レトモ該村ノ義ハ往昔ヨリ山林原野ノ秣場ニ至ル迄四ヶ村ノ入会タリ況ヤ学校ノ如キモ四ヶ村ノ学区内タリ将明治十七年度改正ノ連合役場之際モ三廻部村ハ当部内タルヲ拒ミ寄村ニ連合セント欲シテ御庁ニ請願スルト雖モ御庁ノ御説諭ニヨリテ更ニ当部内タルコトヲ承諾セリ然ルヲ又這回ノ御制度ニ際シ当部内ヲ分離シテ寄村へ合併センコトヲ請願スル該村民ノ精神甚ダ了解シ難シ畢竟該村ノ如キハ一般ノ団結ノ意ヨリ出タル者ニ非ズ僅一二ノ分離説ヲ主張スル者アリテ其村民ヲ鼓舞スル者ト想像ス元來村民ノ動揺ト認ムルトキハ鎮圧シテ此政体ヲ補佐スルガ本意ナリ然ルヲ却テ其私情ヲ採リ村民ヲ仰圧セシハ其村民ニシテ分離主張者ノ意胆ニ触ル、ヲ恐レ其意ニ靡キテ調印セシモノト想像ス克ク之ヲ願レバ往昔ヨリ連合ニ成立タル此部画ヲ脱スルト雖モ前三ヶ村ノ秣場共有地等ノ不便ヲ来ス一元素ナリ茲ニ唱ル分離ハ將來ノ不便ヲ来タスコト必セリ前三ヶ村ニ於テ此分離

ハ大ニ困難アリ依テ三廻部村人民ニ対シ御庁ノ御意見ヲ以テ分離無之様篤ト御説諭被成降度人民惣代連署シテ以テ奉上願候也

足柄上郡柳川村

人民惣代 守屋 森右衛門 (印)

明治二十拾壹年

十月九日

熊 沢 又 造 (印)  
熊 沢 与 二 右 衛 門 (印)

和 田 庄 兵 衛 (印)

加 藤 太 平 (印)

同郡菖蒲村

人民惣代 秋 山 周 吉 (印)

須 藤 藤 吉 (印)

府 川 源 左 衛 門 (印)

飯 塚 春 五 郎 (印)

同郡八沢村

人民惣代 吉 岡 市 之 丞 (印)

牧 石 庄 兵 衛 (印)

小 宮 仲 藏 (印)

牧 石 七 兵 衛 (印)

増 田 太 兵 衛 (印)

神奈川県知事 沖 守固殿

(足柄上郡役所「町村制回議」(明治二年) 神奈川県庁蔵)

明治二十二年一月八日

知事宛

郡長

一覽 都筑郡二俣川村他二か村の合併問題関係書類

(二一六)

(別紙)

請願書

都筑郡二俣川村

(本書)  
『第二十一号』

(二)

明治二十二年一月八日奉進  
全日決行

主任 小池貞一(印)

郡長(印) 書記

町村制施行請願ノ件ニ付副申書案

本郡二俣川村ニ於テハ町村制施行ニ付一村ヲ以テ独立致シ度旨過般  
來屢々申立候間小町村ノ不利ナル理由ヲ懇諭致シ置候処今回別紙請  
願書差出候ニ付篤ト事由取糺シ候処同村ハ從來之連合村ト人情ヲ異  
ニシ自治ノ資力ニ乏シカラス殊ニ大町村ヨリハ小町村ノ費用ヲ減ス  
ルニ便宜少ナカラントノ旨申立候然ルニ其隣村ト人情ノ異ナルノ点  
ヲ発見セザルノミナラス貧弱ノ村方ニシテ到底一村ヲ以テ独立自治  
ノ望ナキモノト見認メ候且大町村ヨリ小町村ノ費用寡少ナラントノ  
申立ハ想像ノ甚シキモノニシテ採ルニ足ラサルモノト存候得共強テ  
請願書進達方申立ニ付此段副申候也

右奉請願要領ハ今般町村制度御發布相成其旨趣ニ因リ当郡長ヨリ町  
村制ノ区域ヲ當時連合スル当二俣川村外六ヶ村ヲ以テ一区内ノ置位  
ヲ定度スルノ示命モ屢々有之シモ其村民共和シテ自治躰ノ法方ヲ維  
持スルモ既ニ連合内川嶋村外五ヶ村ノ如キハ自己ノ自由ヲ全フスル  
カ將タ自治躰ノ本分定全ナルカ自カラ既往独立スルノ旨趣ヲ主張シ  
去明治二十一年十一月頃ナルヤ当郡長ヲ經テ当庁迄区域分離請願ス  
ル場合然ラハ則今般御發布相成候町村制度ノ大意ハ自分共不明ナ  
ルモ要スルニ自治躰ヲ全フシ一区内ノ衆民ヲシテ自由独立ノ法律政  
ニ保護シ大ハ全国中ノ定全ナル自由ヲ維持(スル脱)ナレハ当二俣川村  
ノ人民如キハ右連合ノ村々ヲ離散シ一村独立ヲ希望スル処ナレハ若  
区域ヲ連合村々ト合併スルトキハ却テ村乱ヲ生シ自治躰ノ本分ヲ失  
ヒ定全ナル自由ヲ維持スルコト不能ト私考ス尤モ本年四月御実施ノ  
期モ日ヲ經テ近キニ赴キ最早夫々町村制ノ廃置分合等御決定相成然  
ル処当二俣川村ノ如キハ茲ニ財産ノ資力ヲ掲グレハ地価金八万四余

戸數三百戸以上面積ハ東西南北トモニ二里有余ニシテ随テ距離ノ遠隔ハ不及謂且旧来ノ慣習ニ依リ他ノ村々ト合併ハ何分調和セス因テ町村制第四条ニ基キ他村ト合併スルキハ事実其不便不利益ハ言ズ不語明カナリ依テ他ノ村々ト合併ノ協議ハ整サルモノニテ然ルトキハ事情不得止儀ナレハ町村制第三条及第百十六條第二項ニ基キ本村ハ一村独立ヲ以テ自治躰トナシ組合相設ケ其本分ヲ尽シ法律上ノ義務ヲ負担仕度各人民一同深ク懇願ニ付何卒請願ノ理由御庁許被成下度此段奉上願候也

但小高新田ノ人民ニシテ二俣川村ノ周圍内ニ住居スル人民ハ二俣川村ニ変更仕度旨一同請願ニ候茲ニ但シ書ヲ以テ陳述ス

明治二十二年一月七日

都筑郡二俣川村

人民惣代

鈴木伝左衛門 (印)

同平民 飯田 良八 (印)

同 内田 市太郎 (印)

同 細谷吉右衛門 (印)

戸長 矢部 延秋 (印)

神奈川県知事 沖 守固殿

(注) 「且大町村ヨリ……採ルニタラサルモノト存候」の部分は朱線で抹消されている。

(朱書)  
『第五号』

(二)

本月八日第貳拾壹号ヲ以御部内二俣川村人民惣代ヨリ請願ノ趣旨書類相添へ御申出有之就而者左ノ件々至急御処弁之上御確報有之度候

一 二俣川村ノ請願ハ人民惣代トシテ申出ニハ候得共右ハ果シテ村民一般ノ企望ニ可有之乎否篤ト該村民ニ就キ事實御取調相成度候

一 二俣川村ヲ独立セシムルモ他ノ六ヶ村ハ協和合併スルノ御見据可有之乎又ハ二俣川村ヲ分離スレハ他ノ六ヶ村モ各自ニ独立シ結局現形ノ七ヶ村ヲ以テ組合町村トスルノ外適當ノ手段無之御見込

ニモ候哉

一 二俣川村区域ヲ分離若クハ組合トスルモ他ニ影響ヲ及ホスノ懸念無之候哉

右及照会候也

明治二十二年一月十日

都筑郡長 白根鼎三殿

第一部長 田沼 健 (印)

都筑郡長 白根鼎三殿

(三)

『第五拾五号』

(朱書)

明治二十二年一月十四日奉進  
全日 決行

主任 小池貞一 (印)

郡長(印)

二俣川村区域村組織ノ儀ニ付回答案回儀

本郡二俣川村人民惣代ヨリ全村独立ノ儀請願書差出タルニヨリ去ル十日付第五号ヲ以テ御照会ノ趣領承左ニ申進候

一 二俣川村ノ請願ハ一村人民惣代ト申出候得共之ニ同意セサルモノ始ト八名程内三名ハ村内重立ノ者□意セサル趣意從來ノ連合村々エ□ヲ遂ケ熟議ノ□ニハ分合何レニ決□□差支無之候廿一年此ヲ復□サルモノニ付隣村ニ対シ情義上□□難キ成趣ニ有之且右請願モ兩三輩ノ意見ヨリ成立セルモノニ有之候

一 二俣川村ヲ独立セシムルトキハ他ノ六ヶ村ハ協和合併ノ見据無之市野沢小高新田今井三反田ノ四ヶ村ハ過般諮問ニ答ヘタル如ク飽マテ七ヶ村ヲ以テ一村タランコトヲ主張シ就中小高新田ノ如キハ二俣川村地内ニ孕在セル土地夥多ナルカ故ニ二俣川村ノ独立ハ全村人民ノ望ム所ニ非ルハ勿論ナリ且川島村上星川村ノ如キハ先般橋樹郡仏向坂本ノ二村ト合併セシムルコトヲ出願セシモ若シ此際同村ト合併スルニ至ラサレハ兩村ハ暫ク合併一村トナリ二俣川村等ノ村々ト組合置キ時機ニ臨ミ更ニ仏向坂本兩村ト合併セントノ意見ニ可有之ト見込候

一 二俣川村ノ申立ヲシテ其区域ヲ分離若シクハ組合トナスノ理由アルモノトナシ之ヲ採用スルトキハ無論吉田村及ヒ石川村ニモ影響ヲ及ホスノミナラス其他ニモ多少区域ノ變更ヲ申出ルモノ可有之ト見込候  
右及御答候也

明治二十二年一月十四日

郡長

第一部長宛

上願書

(四)

町村制御施行ニ付一月廿三日私トモ県庁へ御呼出之上夫々御説諭ヲ蒙リ村費方法及学校等ノ不便アリ因テ二俣川村へ合併ノ旨承知仕歸村之上人民へ申聞セ候処人民ニ於テハ川島村へ合併致度旨申候ニ付一月二十八日私トモ外惣代ヲ以テ県庁へ出願候処私トモ二俣川村へ合併ノ旨承知仕リシヨリ二俣川村ヲ更改シ川島村へ合併之儀難相成旨仰渡サレ歸村之上人民へ申聞セ候処人民ニ於テハ当村之儀者川島村三周囲ニ界シタル村落ニ付永世ノ不便利ニ付村費ノ多少ニ係ハラス是非川島村へ合併ヲ致度旨人民申立テ殆ント蜂起ノ如ク私トモ如何様ニ申聞セ候得トモ聞入不申候ニ付此儘確定候得者如何ナル事ニ相

成候哉モ難斗候ニ付一月廿九日私トモ県庁へ川島村へ合併ノ旨出願

仕候処先般合併確定シタルト雖トモ人民ニ於テ不都合無之旨仰渡サレ  
婦村之上人民ニ申聞セ候処人民ニ於テハ二俣川村ヲ更改シ川島村

へ合併ニ相成候様可致旨申候ニ付私トモ殆ソ困難仕候ニ付民情御  
洞察之上川島村へ合併ノ御賛成被成下度比段連署ヲ以奉上願候也

都筑郡三反田村

明治廿二年二月一日

野口要吉 (印)

井上滝蔵 (印)

都筑郡長 白根鼎三殿

(五)

〔朱書〕  
『第七十二号』

明治二十二年二月十二日奉進  
全日決行

主任 小池貞一 (印)

郡長 (印)

町村分合上ノ件ニ付第一部長江報知案

本郡三反田村人民ヨリ出願ニ係ル同村合併上ノ件ニ付過日出庁ノ節  
御談ノ趣モ有之候ニ付同村人民ヲ会合セシメ二俣川村等ノ諸村江合  
併ノ儀懇諭致候処漸ク昨十一日ヲ以テ村内協和ノ上最前申立通り二  
俣川村等ノ諸村ニ合併ノ儀ニ協議相整候間此段及御通報候也

明治二十二年二月十二日

第一部長宛

〔欄外注記〕  
〔朱書〕  
『第一部長親展』

(六)

〔朱書〕  
『第二三九号』

其郡二俣川西谷ノ二ヶ村ニ於テ村費賦課上ノ件ニ関シ紛議ヲ生シ若  
シ協議調ハサルニ於テハ其筋へ処分方ヲ請願セントノ状況有之趣ニ  
聞及ヒ候果シテ事実無相違ニ於テハ已ニ説諭方等ニ御着手ノ事トハ  
存候へ共今日ノ場合右等ノ紛議ヲ生シ万一其筋ノ処分ヲ乞等ノ始末  
ニ立至リ候テハ不都合ノ義ニ付此上一層御注意調和ニ至ラシメ候様  
御取斗有之度依命此段小官ヨリ申進候也

神奈川県庁

明治廿二年四月廿三日

第一部長 田沼 健 (印)

都筑郡長 白根鼎三殿

〔都筑郡役所「町村制施行ニ係ル回議録」(明治二十二年) 神奈川県庁蔵〕

一六 郡界問題に關する稟書記官田沼健の高座

郡長宛書簡

尚々本文之件御尽力之模様詳細御報告冀望候也

鎌倉郡大鋸町之者貴郡へ編入之情願有之此頃惣代之者県庁へ出頭ニ付小官面会數時間ヲ費シ郡界ニ関スル義モ此際更生不致ノ旨意懇々説示ニ及ヒ彼等ニ於テモ氷解之様子ニ有之候処此頃又貴郡大坂町戸長及惣代之者等大鋸町ニ赴キ誘導シ夫カ為メ又々苦情併発セシ趣ニ相聞右者貴官ニ於テモ曾テ御承知ノ如ク本県ニ於テハ郡界ニ関スルモノハ如何ナル事情アルモ此際ハ着手セサル主義ニ而南多摩ト都筑ノ如キ西多摩ト北多摩ノ如キ又大住ト洵綾ノ如キ實際不都合ノ向キモ都テ其儘ニ据置候次第二而独リ大鋸ニ対シ特別ノ処分ヲ為ス必要無之ノミナラス最早町村分合モ発令相成今日ハ町村制実施ノ日ト相成候上ハ今ニシテ如何トモスヘキ様ナキハ勿論最早今日ニ於テ果シテ人民ニ於テ不都合ト感スレハ新制度ニ依リ運動スルヨリ外無之然ルヲ無故内務省へ請願等ヲ為スモ採用不相成ハ明了之事ニ有之加之本県下ニテハ今日ニ至ル迄内務省へ請願シタルモノハ一人モ無之則本県庁ノ名譽且本県人民ノ名譽ニ有之然ルヲ鎌倉郡民貴郡民ノ誘導ニ起リ終ニ内務省へ請願等ニ及フトキハ実ニ本県民一般ノ名譽ヲ傷

ケ不容易不都合ト存候間貴官ニ於テモ直接又ハ間接ニ非常之御尽力ヲ以テ大鋸ノ者断念候様御取計相成度又大坂町戸長カ勸誘セシ等果シテ事實ナラハ十分御叱責被下度右至急申達度如斯候也  
四月七日  
田沼 健

今福郡長殿

尚々諸県よりハ続々分合ノ苦情ニ付内務省へ請願スルモノ有之候へ共一ツモ採用ニハ不相成趣況ンヤ今日新制実施相成タル上ハ無論受理ニハ相成間敷自治ヲ許サレ自ラ処分スルノ法律ヲ与ヘラレナガラ官ニ請願スル等ハ誠ニ無謂事ニテ県民ノ恥辱ト存候間其辺ヲモ御差含候大坂町ノ者ヲシテ大鋸町之者ニ断念セシムル様ノ策呉々御尽力被下度冀望之至ニ候也  
(今福祥氏藏)

一七 都筑郡下村役場開設事務引継に關する

照会案

(朱書)  
『第八百貳拾壹号』

明治二十二年六月十日奉進  
同日決行

主任 小池貞一(印)

郡長(印) 書記(印)

事務受渡ノ件ニ付村長并元戸長へ照会案

事務受渡村役場開設ノ儀ニ付テハ既ニ申進置候次第モ有之候処未タ開設届御差出無之追々遷延事務上差支不尠候奈事務ノ受渡結了スルト否トニ拘ラス来ル十三日ヲ限り村長就職ノ上役場開設届差出サレ直便ヲ度尤全日直ニ引継ヲ終ラサルモノ有之ハ可成取急キ右結了ノ上ハ去ル三月本県訓令甲天第拾貳号末項ニヨリ届書差出シ相成度此段更ニ及照会候也

明治二十二年六月十日

都筑郡役所

元村長 兩名宛

(都筑郡役所「町村制施行ニ係ル回議録」(明治三二年) 神奈川県庁蔵)

### 第四節 町村合併分離の係争

一、橘樹郡保土ヶ谷町他数か村の合併問題を

めぐる紛議(二一六)

(二)

別紙之通一般人民ヨリ上申候得共程ヶ谷町へ組合ニ限ラス芝生村へ組合或ハ合併相成候儀ハ不都合無御座候間此段添書上申仕候也

明治二十一年十月 日

下星川村外三ヶ村

人民総代  
飯岡 周歳

神奈川県知事 沖 守固殿

北村 二郎

(別紙)

上 申

橘樹郡

下星川村

和田村

仏向村

坂本村

町村制ノ義ニ付右村々ヲ以テ程ヶ谷町へ合併之趣御談示相成再三協議仕候処駅町ト在村トハ自カラ民情風俗ヲ異ニシ随テ経費ノ負担方等モ自然相違有之候義ニ付該四ヶ村ヲ以テ一村トナシ程ヶ谷町へ組合ニ致度候間村民一同連署ヲ以テ此段上申仕候也

明治二十一年十月一日

右仏向村

山本重右衛門

外六十一名

坂本村

杉本 半歳

外十一名



委任状

下星川村  
飯岡 清兵衛

外五十三名

和田村

青木甚右衛門

外十五名

下星川村 飯岡周蔵

仏向村 北村二郎

右之者下星川村外三ヶ村人民総代トシテ左之権限之事ヲ委任候事

町村制御施行ニ付駅町ト在村ト合併不都合ニ付其筋へ上申其他

右ニ付百事委任候事

右代理委任状如件

明治二十一年十月一日

橘樹郡

仏向村

山本重右衛門

外六十名

坂本村

杉本 半蔵

外十一名

下星川村  
飯岡 清兵衛

外五十名

和田村

青木甚左衛門

外十五名

村区域変換願

(二)

橘樹郡仏向村坂本村

都筑郡川島村上星川村菅田  
村新井新田三反田村

今般町村制御発布相成候ニ付テハ前記村々永遠之便益地形ノ情況ヲ

量リ右七ヶ村ヲ併合シ新村造成之儀各地立一同協議相整ヒ候間御採

用相成度依テ其便宜其他之事項左ニ掲記致候

一 仏向村坂本村ハ程ヶ谷駅ニ合併之外他ニ隣村無之然ルニ駅ト村

ハ自然民情風俗及消防衛生費其他費用之収支相異リ且地勢相隔リ

不便尠カラス候処然ルニ隣郡川島村上星川村トハ人家接統地所交

入ス是ヲ以テ民情及費用性質等ニ至ル迄聊カ異ナル所無之殊ニ仏

向村坂本村ノ人民ハ川島村上星川村ニ土地ヲ有シ来作スルモノ尠

カラス随テ人民ノ交際ニ至テ祭典ノ如キ共々相招待シ其交情殆ソ  
ト一村ノ如キ慣習ニ有之候

一 川島村上星川村三反田村ハ從來ニ俣川村組合村ニテ其里程東西  
ノ端ヨリ之ヲ計レハ二里拾八町余モ有之民情稍異ナリ兎角不便勤  
カラス諸上納物如キ先ツ納期ニ際シ其産物ヲ東方神奈川駅ニ売捌  
婦村之上更ニ西方壱里余出頭納済スル儀ニ有之然ルニ前記之村々  
ト併合スルニ於テハ外村共ニ斯之如キ不便無之加之万事好都合之  
儀ニ有之

一 上菅田村新井新田ハ中山村ヘ合併之儀上申仕置候ト雖モ退テ考  
フルニ同村ニハ鶴見川堤防費等ノ費用モ有之殊ニ山路一里余ヲ隔  
タリ候ヘ者從來ノ交際モ無之然ルニ前記ノ村々トハ一平地ノ中ニ  
接続致シ旧來ノ交際モ有之候ヘハ之レト併合スルハ地理上ヨリス  
ルモ交際上及費用ヨリスルモ其便宜少々ニ無之候

一 其他右併合利便ナル要点ハ願意ニ難述候ニ付右總代ヨリ口舌ヲ  
以テ詳述仕度候

一 他町村境界ニ混合シタルケ所更ニ無之事  
橘樹郡仏向村坂本村ノ二村都筑郡ニ編入ノ事

一 地価金八万千貳百七拾五円三十錢九厘  
内壱万六千九百八十二円七拾四錢九厘

仏向村

内三千六百六十円九十錢四厘

内貳万八千八百二十二円二十二錢六厘

内壱万三千二百三十四錢七厘

内壱万七千七百七十七円七十六錢

内貳千七百六十九円七拾貳錢

内四千五十八円八十二錢三厘

一 戸數三百七拾貳戸

内六十六戸

内拾三戸

内百廿六戸

内八十三戸

内五十五戸

内拾四戸

内拾八戸

坂本村

川島村

上星川村

上菅田村

新井新田

三反田村

仏向村

坂本村

川島村

上星川村

上菅田村

新井新田

三反田村

一 面積南北貳里余東西拾八町

一 新成村名 西谷村ト称ス

一 村事務所位置 川島村百七拾番地正観寺

一 二俣川村ハ独立シテ其ノ本分ヲ尽スヲ請願スルニヨリ故ニ本願

ニ対シ故障無之候事

一 前条ニ付二俣川村六ヶ村及上菅田村新井新田橘樹郡仏向村坂本  
村拾壹ヶ村地価合計之ヲ二分シ市野沢村小高新田ノ内ヲ当併合村  
へ御加入ノ儀其筋ノ御詮議ヲ仰キ度候  
右合併之儀一同請願致御採用被成下度地主一同委任ヨリ私共総代連  
印ヲ以テ比段請願候也

都筑郡川島村関係人総代

三村 久右衛門

明治二十一年十一月廿九日

綿貫 亀太郎

中田 林三郎

上星川村

中村 新七

藤間 庄之助

仏向村

北村 二郎

板津 芳太郎

坂本村

岩本 音吉

大塚 弥太郎

上菅田村

久保田半右衛門

鳥海 半左衛門

三反田村

井上 巳之助

井上 菊五郎

請願書

(三)

本年四月町村制実施ノ為メ先キニ神奈川県庁ハ仏向坂本ノ両村ヲ以  
テ程ヶ谷駅ニ編入スルコトセラレタリ因テ其ノ利害ノ異ナル所ヲ  
挙ケテ程ヶ谷駅ニ合併ノ不可ヲ唱へ其取消ヲ神奈川県庁ニ出願セシ  
ガ思フニ是レ神奈川県庁ガ容易ニ下シ得可キ断案ニアラザラン何ト  
ナレバ已ニ数十日ヲ経過シタル今日ニ至ルモ未ダ妥当ノ指令モナキ  
ヲ以テナリ然ルニ町村制ノ実施ハ一日ト差迫リ苟モ今日ニ於テ放  
任シ置カバ両村ニ関スル将来ノ損害尠少ニアラザルノミナラズ其損  
害ハ到底両村ニ於テ永遠ニ担任シ能ハザルモノナリ斯ク其損害ノ將  
来ニ起ルベキヲ予知シナガラ強テ今日ニ合併ノ夏ニ黙従センカ蓋シ  
両村ハ到底程ヶ谷駅ト分離ノ争ヲ将来ニ於テ醸サマルヲ得ザルニ至  
ランノミ即チ今日ニ於テ其合併ヲ取消サレンコトヲ希望スルモノハ  
夏ノ止ムヲ得ザルニ出ヅルヲ知ルベシ豈ニ夫レ封建割拠ノ余習今日

ニ延テ徒ニ合併ノ不利ヲ唱ヘ而シテ此ニ出ヅルモノナランヤ某等深ク見ル所アリ敢テ閣下ノ省察ヲ請ハント欲シ左ニ其理由ヲ記述ス

一 仏向坂本ノ両村ハ橘樹郡ニ屬シテ其隣レルモノハ程ケ谷駅及ヒ都筑郡屬ナル川島上星川ノ両村トス而シテ程ケ谷駅ハ東海道筋ニ當ツテ戸口連続往来頻繁タリ故ニ從テ商業モ繁榮ヲ致シ富ノ程度モ自カラ高マリ生計ノ度モ大ニ其趣ヲ異ニセリ之ニ反シ仏向坂本ノ両村ハ偏隅ノ小村落ニシテ戴星踏月ノ勞ヲ取テ以テ纔ニ消日ナシツ、アルモノナリ加之人情風俗ノ如キハ全ク其岐ヲ異ニシ平生ノ出来事ニシテ未タ相関支柱セラレタルコトアラズ若シ夫レ管轄ノ上ヨリ云ハハ同ジク橘樹郡屬タリト雖ドモ山アリ川アリ林アリテ其境界ヲ形造リ交際ノ事自然ニ相疎隔シ平常其利害ノ關係ハ殆ンド絶無ト云フテ可ナリ然ルニ川島上星川ノ両村ハ其郡屬ヲ異ニスト雖ドモ地相接シ家相連ナリ人情風俗生計富度皆ナ稍均一ナリ平生ノ交誼從テ親密ニシテ祭典ノ如キ末事ニ至ルマデ交談連結シ其状恰カモ同村ニ均シキ觀ヲナスモノ是レ今日ノ現勢ナリ夫レ人類ハ感情ヲ同クシ利害ヲ共ニスルモノヲ求メテ集合スルモノナルコト実ニ明確ノ事柄ナリ仏向坂本ノ両村方同郡屬ナル程ケ谷駅ヲ避ケテ殊ニ郡屬ヲ異ニスル川島上星川兩村ト其交誼ヲ深クシ其利害ヲ相訴フル所以ノモノハ實ニ是レ感情利害ヲ同一視スルノ適証

ニアラズ亦然ルニ感情ヲ異ニシ利害ヲ同フセサル人類ヲ同一ノ柵中ニ驅テ同一ノ管理法ヲ以テ支配セントスルハ事ノ破裂ヲ將來ニ招クノ因タラザルナキヲ得ンヤ斯ノ如キ道理アルガ故ニ仏向坂本ノ斷乎トシテ程ケ谷駅合併ノ不利ヲ唱フル所以ナリ

一 若シ夫レ仏向坂本ノ両村ガ強テ今日ニ其人情風俗ヲ異ニスルコトヲ忍ンデ合併ヲ肯ズルモノトスルモ之レヨリ生ズル經費担任ノ重責ハ到底永遠ニ忍ブ能ハザルナリ然ラバ則チ其破裂ハ合併ノ事實行ノ當時ヨリ子メ覺悟シ置カザル可カラズ果シテ然ランニハ此ノ如キ危險ノ合併ハ寧ロ初メヨリ為サマルノ優レルニ如カザルナリ實ニ生計富度ニ大差アル二箇ノ土地ヲ結付ケテ均一ノ納租ヲ為サシムルハ優者ノ幸劣者ノ不幸ト云ハザルヲ得ズ仏向坂本ノ両村カ程ケ谷駅ト合併スルトキハ均シク同一ノ納租ヲ辭ス能ハザルハ自然ノ道理ニシテ而シテ其富度生計ノ程ケ谷駅ガ仏向坂本ノ両村ニ優ルコト遠シトセバ其程ケ谷駅ト合併ノコトニ因リ納租ノ義務ノ幾分ヲ免レタルモノト云フベキモ優者ニ結付ケラレテ同一ノ負荷ヲ為シ苦痛ノ淵ニ沈ム仏向坂本兩村ノ不幸果シテ幾千ゾヤ則チ其負荷ノ重キヲ致ス目前一二ノ例ヲ挙グレバ仏向坂本ノ兩村ハ從來衛生消防ノ二費ヲ免カレ道路橋梁ニ関スル費用ノ如キモ絶テ之ヲ支出センコトナキニ今若シ合併ノ事行ハレナバ是等ノ費用ハ立

ロニ來ツテ仏向坂本ノ兩村ニ其供給ヲ促スヤ必然ノ事タリ當ニ之レノミナラズ新課ノ租税ハ踵ヲ接シテ迫マリ來ラン是レ兩村ガ憂慮ノ因トナリテ到底其賦課ニ耐ヘズ分裂ノ議ノ將來ニ起ランコト蓋シ首ヲ翹ゲテ待ツベキ耳

一 以上二箇ノ道理ニ依リテ合併ノ不利ナルコトヲ思フ矣然レドモ其合併ノ不利ナルコトハ則チ不利ナリト雖ドモ兩村ガ合併ノコトヲ免ガレテ自立単行自治制ノ下ニ立タンコトヲ期スルモノニアラズヤ必ズヤ其独立スルコト能ハザルヲ信ズ然ラバ兩村ガ將來ニ処スルノ道如何是レ兩村民ガ深クモ思考ヲ及ボセシ所ニシテ只ダ一策アルノミ今之ヲ付記シ併セテ大ニ請願スル所アラン第一ノ理由中ニ書記セシ川島上星川及ビ上菅田新井新田三反田ノ五ヶ村ハ都筑郡屬ナレドモ其人情風俗ハ毫モ仏向坂本ノ兩村ニ異ナル所ナク富度生計ノ如キモ殆ンド同一ナリ而シテ都筑郡屬ナル五ヶ村ハ現今二俣川村ノ組合内ナルガ故ニ納租ノ期至ルトキハ其地ニ於テ製産セル物品ヲバ横浜若クハ神奈川駅ニ齎ラシ而シテ居村ニ歸リ又更ニ兩方一里余ノ外ニ在ル二俣川村ニ至リ以テ其義務ヲ果スコトノ如キ其他之レニ追從セルノ不便利甚タ多シ然ルヲ万一仏向坂本ノ兩村ト連結セバ主トシテ其不便利ヲ除キ其感情利害ヲ共ニセル各村ガ同一ノ支配内ニ在ルコトナレバ万事千件其支配ヲ異ニセル

當時ニ比シテ各村ガ享受スル便益尠ナキニアラズ今仏向坂本兩村ノ有スル地価及戸數ヲ挙ゲンニ地価金貳万六百四十三円六十七錢三厘(仏向村ハ金壹万六千九百八十二円七十四錢九厘坂本村ハ金三千六百六十四円九十二錢四厘)戸數ハ七十九戸(仏向村ハ六十六戸坂本村ハ十三戸)ニシテ都築郡屬ナル五ヶ村ガ保有セル地価戸數ハ即チ地価金六万〇六百三十壹円六十三錢六厘(川島八千八百貳十貳円貳十錢六厘上星川村壹万貳千貳百〇三円十錢七厘上菅田村壹万七千七百七十七円七十六錢新井新田貳千七百六十九円七十錢三反田村四千〇五十八円八十二錢三厘)戸數二百九十六戸(川島村百廿六戸上星川村八十六戸上菅田村五十五戸新井新田十四戸三反田村十八戸)ナリ此各村ハ其郡屬ガ何レノ一方ニ變ズルモ毫モ異議ナキモノニシテ其地価戸數ヲ合算スレバ地価金八万壹千貳百七十五円三十錢九厘戸數三百七十五戸ナリ此各村ヲ連結シ得ラル、モノトセバ實ニ各村ガ將來ニ受クルノ福利少ナキニアラザルナリ

一 然リト雖ドモ是レ只仏向坂本兩村ガ蒙ルベキ困難ト利益トヲ對比列挙セシニ過ギズシテ都築郡屬ノ各村ガ感情果シテ如何トノ疑問ノ起ルベキハ正ニ然ルベキ所ナリトス而シテ仏向坂本ノ兩村ガ此問題ニ就テノ注意ハ此疑問ヲ水解セシムルニ容易ナリ即チ深ク

大ニ都築郡屬ノ各村ニ謀議スル所アリテ其認諾ヲ得タルモノニシテ都築郡屬ノ各村ガ感情ハ実ニ仏向坂本ノ兩村ト異ナラザルナリ本願合併ノ夏ノ行ハレタルヨリ起ルベキ將來ノ利益ハ又都築郡屬ノ各村ニ於テモ稟受シ得ルモノナリトハ其各村ガ認識スル所ナリ畜ニ之ヲ認識スルノミナラズ又大ニ其本願合併ノ夏ノ行ハレンコトヲ切望スルモノナリ然ラバ本願合併ノ夏ハ其利害ノ及ブ所彼此相異ナラズシテ仏向坂本ノ兩村ト其冀望ヲ同フスルモノタルコト明白ノ夏実ニアラズヤ紙尾都築郡屬ノ各村民ガ署名捺印セルハ以テ益々其然ル所以テ明カニスルニ足ルモノアルナリ

右ハ唯ダ仏向坂本兩村ガ程ケ谷駅ニ合併セラル、ノ不利及其都築郡屬五ヶ村ト相連結スルノ利益ノ一二ヲ挙ゲシモノニシテ要スルニ此七ヶ村ハ何レカ一方其郡屬ヲ脱シテ一方ニ結付ケラレンコトヲ請フモノニ外ナラザルナリ願クハ閣下ガ充分ノ觀察ト憐愛トヲ以テ本願ノ素志ヲ遂ゲシメラレンコトヲ敢テ奉請願候也

(四)

組合町村分離願

橘樹郡  
保土ヶ谷町

協議 原案

一 町村組合役場費

一 組合會議費

一 勸業費

以上ハ組合連帶支弁

一 衛生費

一 火災警備費

一 土木費

一 救助費

一 教育補助費

以上ハ各町村限りノ支弁

但用水路ニ関スル土木費ハ旧慣ニヨル

一 役場位置ハ元保土ヶ谷町外四ヶ町村戸長役場

一 組合會議員ハ拾名トシ

内

矢崎村

宮川村

二人

二人

宮川村  
矢崎村

保土ヶ谷町 六人

右割合ハ公法人員ノ歩合ニヨレリ

一 組合費用分担

全額ノ七分七厘

保土ヶ谷負担

全額ノ二分三厘

二ヶ村負担

右割合ハ全額ヲ地価ニ七分五厘

戸数割ニ貳分五厘ノ歩合ニヨレリ

一 町村長

一名

一 町村助役

一名

一 収入役

一名

一 書記

三名

一 使丁

二名

内一名ハ二ヶ村ヨリ之レヲ負担ス

一 勸業委員

一名

一 町村役場借家料一ヶ月金貳円五拾銭

以上 原案

宮川矢崎二ヶ村

前記原案ヲ熟考スルニ組合費用ノ分担割合ヲ出金スルヨリ寧ロ二ヶ村組合ヲシテ組合役場ヲ設クレバ却テ費用モ減少シ且人民便利

ニ付保土ヶ谷町ト分離スルヲ希望セリ

保土ヶ谷町

保土ヶ谷町ハ素ヨリ独立ヲ成シ得ラル、資力モアレハ二ヶ村組合

ヲシテ保土ヶ谷町ト分離ヲ便利トスルニアレバ俱ニ分離独立ヲ希

望セリ

右者町村制第百七条第二項ニヨリ関係町村本月八日及十二日ノ両

日協議開会候処前記二項ノ趣意ニ有之候間分離相成様致度関係町村

総代人連署上願候也

明治二十二年四月十五日

橋樹郡保土ヶ谷町

字保土ヶ谷

神 戸

岩 間 岡野新田

總代人

小野彦三郎

鈴木清三郎

荒波孫四郎

磯貝 林藏

岡野勘四郎

元保土ヶ谷町外四ヶ町村

戸長 金子 泰吉

郡告示第三十七号

(五)

保土ヶ谷町

宮川村

矢崎村

町村組合協議ノ調ハサルニ付則本制第百七十七条第二項ニ由リ左ノ通り之ヲ定ム

明治廿二年四月廿六日

神奈川県橘樹郡長 増田 知

- 一 町村組合中ニ町村長及助役収入役各一人ヲ置ク
- 一 組合会議ノ議員ハ各町村会ノ議員ヲシテ互選セシム

保土ヶ谷町 八名

宮川村 三名

矢崎村 三名

- 一 議決ノ制限ハ本制第四十三条(議員三分ノ二)ニ由ル

- 一 共通支弁スヘキ費目及其分担方法

組合町村役場費

組合会議費

勸業費

右分担ハ其町村ノ地価戸数ニ依リ全額ノ八分ヲ保土ヶ谷町同式分

ヲ宮川村矢崎村ニケ村ノ分担トシ其賦課方ハ左之通り

地価 六分

戸数 四分

- 一 組合ニ要スル經費ノ収入支出ハ之ヲ共通セシム
- 一 共通支弁セサル費目

衛生費

火災警備費

土木費

救助費

教育補助費

右ハ各町村限りノ支弁ニシテ用水路ニ関スル土木費ハ旧慣ニ由ル

- 一 町村長ハ保土ヶ谷外ニケ村組合町村長ト称ス

- 一 町村役場位置ハ元保土ヶ谷町外四ヶ町村戸長役場神戸七百十一

番地トス

- 一 町村役場ハ保土ヶ谷町外ニケ村組合役場ト称ス



組合町村分離願

(六)

橋樹郡  
宮川村  
矢崎村

神奈川県橋樹郡長 増田 知殿  
町村組合解組御許可願  
(七)

橋樹郡  
保土ヶ谷町

宮川村  
矢崎村

右ハ町村制第十七条第二項ニヨリ関係町村本月八日及十二日ノ協議会致候節保土ヶ谷町ヨリ差出セシ別紙原案ニ付之ヲ熟考スルニ組合費用ノ分担及議員ノ数其他ニ於テ同意致兼候ケ所不尠只費用ノ尠点ニ於テモ前記分担ヲ出金スルヨリモ(費用仕訳書ハ)寧ロ忒ケ村組合ニシテ役場ヲ設クレバ却テ費用減少シ且人民便利ニ付程ケ谷町ト分離相成候様致度両村総代人連署ヲ以テ上願候也

明治二十二年四月

右宮川村総代  
飯岡周 蔵印  
田口 儀左衛門印

矢崎村総代  
北村 二郎印  
岩本音吉印

元芝生村外四ヶ村  
戸長 三村 庄右衛門印

右ハ町村制御施行ニ付客月一日告示第二六号ヲ以テ右町村組合ノ義御令達相成爾後整理順序ニ依リ各町村議員ヲシテ組合会議ノ議決ヲ互撰シ組合事務上会議ヲ開クモ素ヨリ生活上及人情風俗ニ至ルマテ異ナルアリ且人民遠隔ノ不便ヲ鳴ラシ將來調和ノ見据不相立ニ付各町村解組ノ方法ニ便利ニ付組合会議ニ於テ遂ニ組合ヲ解クノ議決ヲ為シ候間本制第十八条ニ拠リ解組御許可被成下度関係者連署上願仕候也

明治二十二年五月六日

橋樹郡保土ヶ谷町外二ヶ村  
組合会議員  
矢崎村  
北村 二郎

板津 芳太郎

大塚 弥太郎

宮川村

飯岡 周蔵

青木 勘吉

安藤 鉄二郎

保土ヶ谷町

岡野 勘四郎

荒波 孫四郎

石田 善右衛門

浅井 惣吉

川本 順蔵

足立 伊三郎

深野 利兵衛

磯貝 林蔵

右二ヶ村元戸長

三村 庄右衛門

右町元戸長

金子 泰吉

(内)

町村制施行ニ付橘樹郡長ノ措置不服ノ顛末

第壹 本年三月十五日郡衙ヨリ宮川矢崎ノ二ヶ村ヲ以テ程谷町ト組

合ヲ施行ス依テ予シメ組合會議ノ組織事務ノ管理并ニ其費用ノ

支弁方法等ヲ議シ置クヘシ尤組合會議ノ議員ハ各町村三名宛ト

達シタリ

第貳 同月廿三日郡衙ヨリ芝生戸長宛ノ書面ヲ発シ右ノ達示ハ都合

ニヨリ返却スヘキ旨ノ通暢アリ依テ戸長ハ其命ニ応シ早速之ヲ

返戻セリ一旦公式ヲ踏ミ人民ノ周知シタル令達ヲシテ正當ノ手

続ナク之ヲ取消シタルハ如何ナル者ニ候哉理由甚タ了解ニ苦シ

ミ申候

但シ右達示ト取消迄トノ日数ハ九日間ヲ経過セリ

第三 四月一日郡衙ハ程谷町ト宮川矢崎ノ二ヶ村ヲ以テ組合ト為ス

旨ヲ達シタリ

第四 四月八日郡衙ノ命ニ徒ヒ旧町村各名宛總代ノ名義ヲ以テ會

議ヲ開キ組合會議ノ組織及費用ノ支弁方法等ヲ打合せシニ議遂

ニ協ハスシテ止ム

第五 四月十二日組合會議ニ付右ノ如ク兎角好結果コレナキニ付程

谷芝生ノ兩戸長郡衙ニ出頭シ一町二ヶ村ノ組合ハ到底其折合不

十分ニシテ且解組ノ方却テ二ヶ村ニ取リテハ費用減少スル目算

ナレハ宜シク許可アリタシトノ意ヲ開陳セシニ郡長ハ之ニ対ヘ

テ今直チニ解組ノ詮議ニ及ブハ町村制ノ順序方法ニ違フ所アル

ヲ以テ兎モ角一先ツ組合會議ニ於ケル双方異議ノ廉ヲ申立ツル

様取計フヘシ郡衙ハ直チニ之ニ裁決ヲ与フヘシ併シ箇ハ是レ唯

手続上ニ止マルノミニシテ追テ解組ヲ許可スル手続方法ニ過キ

サルナリト云ヘリ依テ兩戸長ハ此意ヲ承ケテ夫々通暢シタリ

第六 四月廿四日右ノ次第二付宮川矢崎二ヶ村ノ総代人ハ程谷町ヨ

リ提出セル原案ニ異議ノ廉々明記シ町村制第百拾六条第二項ニ

ヨリ郡衙へ上申セリ

第七 四月廿六日右ニ対シ郡衙ハ之ニ裁決ヲ下セリ二ヶ村ニ於テハ

該裁決ニ不服ノ廉アルヲ以テ進ンテ県參事會へ訴願セント思考

セシカ予テ郡長ハ該裁決ハ一時町村制ノ順序ヲ蹈ム迄ニシテ其

実解組ノ詮議ニ及ブ手続方法ナリト云ヒシ言語アルヲ以テ二ヶ

村ニ於テハ暫時上訴ヲ見合セ郡長ノ処置如何ヲ見ント決シタリ

第八 五月三日郡長ハ左ノ如ク達シタリ

写

昨日御申立ノ一条ハ組合互撰議員ニ於テ會議ヲ開キ(但シ此  
員ノ議長無之ニ付矢  
張高年者ヲ議長トス)該會ニ於テ組合組織ヲ解キ候事ニ議決候

ハ、即チ第百拾八条ニ依テ解組ノ義可申立事

矢崎宮川ハ前条ノ通議決候ハ、此二ヶ村ハ更ニ第百十六条ニ

依リ組合ヲ設クルノ申請書可差出事右之通相運ヒ程谷外二ヶ

村組合解ケタル上ハ程谷へハ町長撰筆可致旨更ニ可相達候事

外二ヶ村へハ組合組織出来シタル上ハ村長撰筆可致旨更ニ可

相達事

右御心得迄ニ申進候也

五月三日

増田 知

金子 泰 吉殿

三村 庄右衛門殿

矢崎宮川ノ二ヶ村ハ今更合併ハ不都合ニ付組合ノ事ニ御取計

可被成候

第九 五月六日右ノ達アリタルニヨリ取敢ヘス組合會議員連署ノ上

解組ヲ出願セリ

第十 五月十八日郡衙ハ右解組ノ願意ハ開届ケ難キ旨口頭ニテ達シ

タリ若シ郡衙ニシテ右写ノ如キ令達ヲ発セサリシナラハ二ヶ村

人民ハ法定ノ期限内ニ於テ夫々上訴ノ手続ヲ蹈ムヘキニ該令達

アリタルガ為空シク其權利ヲ失却セシメタルハ郡長ノ措置甚不

当ノ様相覚ヘ候

右之通相違無之候也

明治二十二年五月廿七日

橋樹郡矢崎村議員

板津 芳太郎

山本 直二郎

横溝 四郎兵衛

山本 幸太郎

北村 徳二郎

大塚 弥太郎

岩本 市右衛門

北村 二郎

同郡宮川村議員

矢部 佐吉

飯岡 清兵衛

飯岡 文吉

本郷 竹蔵

安藤 鉄二郎

飯岡 周蔵

青木 勘吉

町村制組合解組許可御願

(九)

石井 富蔵

橋樹郡

程谷 町

宮川 村

矢崎 村

這般町村制実施ニ付右一町二ヶ村ヲ以テ一組合ト為ス旨客月第二六号ヲ以テ其筋ヨリ令達アリタリ依テ各町村応分ノ議員ヲ出シ本制第百拾七条ノ命令ニ從ヒ組合會議ノ組織事務ノ管理方法及ヒ其費用ノ支弁方法等ヲ協議セシ末遂ニ別紙ノ如キ議決ヲ得テ之ヲ郡衙ニ出願セリ爾來待ツ事數日漸ク本月十八日ニ至リ郡衙ハ審理ノ末終ニ該願意聞届ケ難キ旨口頭ヲ以テ達示之レアルノ不幸ヲ見タリ我々竊カニ以為ラク該願書タルヤ其意ノ其筋ニ採用セラル、ト否ラサルトハ固ヨリ予知スヘキ限リニアラスト雖モ責メテハ之ニ向テ何等ノ指令書アルヘキハ事理ノ当然ニシテ一点ノ雲霧ダモ胸中ニ貯ヘサリシニ因ラサリキ唯簡單ニモ口頭ノ令達ニ止マリシハ返ス、モ其意ヲ得サル事ナレドモ今ハ之ヲ言フモ更ニ詮ナケレバ此ニ其煩ヲ避ケ唯我々

方飽迄其願意ヲ採納セラレン事ヲ望ムノ点ヲ列挙シテ閣下ノ賢慮ヲ仰クノミ豈敢テ殊更ニ弁ヲ好ミ事ヲ望ミ平地ニ波濤ヲ生セシメン事ヲ欲スルモノナランヤ蓋シ衷情万々已ムヲ得サルモノアレハナリ町村制第百拾六条ニ「数町村ノ事務ヲ共同処分スル為メ其協議ニ依リ監督官庁ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得」ト之アリ謹テ本条ノ精神ヲ吟味スレハ從來ノ町村ハ可成其儘之ヲ据置クコト法律ノ最モ希望スル所ニシテ而モ正則ト見ルベキモノナリ何トナレハ若シ從來ノ町村ニシテ独立ヲ欲セズ他ノ町村ト組合ヲ望ムトキハ苟クモ管轄官庁ノ許可ヲ得サル可ケレハナリ依テ案スルニ宮川矢崎ニケ村ノ如キ未タ初メヨリ好シテ他ト組合ヲ出願セシコトナキニモ拘ラズ程ケ谷町ト組合方法ヲ施行セシメントスルハ抑モ之ヲ法律上正當ノ手段ト見ルヲ得ヘキ乎我々ハ縦思横考シテ猶其理由ヲ発見スルニ苦マサルヲ得サルナリ尤同制第百拾六条第二項ニ「法律上ノ義務ヲ負担スルニ堪フヘキ實力ヲ有セサル町村ニシテ〔中略〕数町村ノ組合ヲ設ケシムルヲ得」トノ明文アリト雖我々ハ誓テ該ニケ村ガ法律上ノ義務ヲ負フ能ハサルトハ思考セサルナリ否断然負担シ能フノ力アリト確信スルナリ

尚進ンデ之ヲ云ヘバ収入役及書記小使等ノ員數ノ如キ彼レニ組マバ負担重クシテ分離ニ出ツレハ費用却テ尠ナルヲヤ夫レ然リ然ルニ

此等數ノ者ハ皆是レ金錢ヲ以テ量定シ得ヘキモノナリ若シ之レニ冥々ノ利益ヲ合算スレハ殆ント驚クヘキ差異アルヲ見シ  
 冥々ノ利益トハ何ゾヤ組合方法ニヨレハ役場ハ勢ヒ道路懸隔セル程谷町ニ置カサル可ラス果シテ然ラシニハ之レニ往復スルニケ村民ハ少ナクトモ半日ノ家業ヲ欠キ時トシテハ終日耕耘ヲ廢スルノ不幸ニ遇ヒ加之レガ為空シク屋敷等ニ失費ヲスルアルハ決シテ免カル可ラサル數ナリ之レヲシモ不幸不運ト云ハサレハ將タ何ヲカ不幸不運ト云フベキ

以上ノ事實ヲ外ニスルモ尚ニケ村組合ヲ希望シテ措カサルモノアリ何ソヤ人情風俗ヲ異ニスルノ点是レナリ夫レ程谷町ハ東海道筋ノ要路ヲ占メ往來ノ人多ノ通行ノ車馬夥シ街衢ハ整然人家ハ稠密從テ人皆商業ニ衣服シ反之宮川矢崎ノニケ村ハ其位置ヲ云ヘハ辺隅其人家用云ヘハ点々四方山ナラサレハ野野ナラサレハ唯是レ田畑ノミ從テ住民悉ク農事ニ糊口スルモノニアラサルハナシ夫レ如斯其風俗人情ヲ異ニセル殆ンド別天地ノ如キ觀アルモ亦宜ナラスヤ

抑モ人ハ己レト境遇ヲ同フスルモノト相馴レ相親ムハ古今東西其婦ヲ一ニスル所ナリ然ルニ今強テ風俗人情ヲ異ニセル一町ニケ村ヲ以テ同一支配ノ下ニ置カントス安ソ永遠無窮ニ幸福ヲ享受シ得ヘクシヤ是レ我々ガニケ村組合ヲ惴望シテ措カサル所以ナリ仰キ願ハク